

1. 地域公共交通網形成計画について

- 【国の方針】（平成26年11月 地域公共交通活性化再生法が改正）
- 地域公共交通の維持・改善は、交通分野の課題解決にとどまらず、まちづくり、観光、健康、福祉、教育、環境等の様々な分野で大きな効果をもたらす。地域の総合行政を担う地方公共団体が中心となり、地域戦略の一環として取り組む必要がある。
⇒これまでの地域公共交通総合連携計画に代わり、地域公共交通ネットワークとまちづくりを一体的に形作る**地域公共交通網形成計画**が新たに法定計画として位置付けられる。
 - これを受けて、城端線・氷見線沿線地域においても、人口減少社会が進展する中で、地域公共交通の維持・改善は将来のまちづくりを進める上で不可欠な要素であること、北陸新幹線の開業効果を、多様な公共交通網を連携させることで沿線地域へ最大限に波及させる必要があること等の理由から、
⇒沿線地域が自立した都市・生活機能を包括する広域的な地域として持続していくよう、新たに地域公共交通網形成計画を策定。

【既存計画】 ■城端・氷見線地域公共交通総合連携計画（平成24年度～平成28年度の5年間）

【新たな計画】 ■城端線・氷見線沿線地域公共交通網形成計画（平成29年度～平成33年度の5年間）

2. 城端線・氷見線沿線を取り巻く現状

（1）沿線地域の人口

- 4市の合計人口は昭和60年の360,690人をピークに**減少傾向**。
- 城端線・氷見線の**駅周辺**及び自動車の利便性が高い郊外の**幹線道路沿い**に人口が**集積**。
- 沿線駅周辺の中心市街地や各市の外縁部・山間部で**高齢化率**が高い。

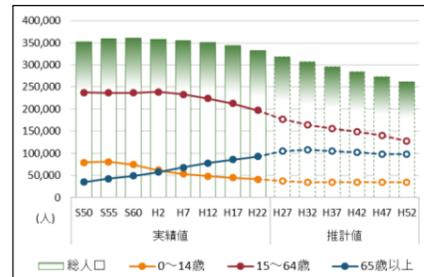


図 4市の人口推移

出典：【実績値】国勢調査 【推計値】国立社会保障・人口問題研究所

（2）沿線の施設立地状況

- 【観光地、観光施設】
- 各市の歴史や文化に根付いた観光地、観光施設が数多く立地している。
 - 世界遺産の五箇山合掌造り集落など、**鉄道駅から離れている集客力の高い観光地、観光施設**も存在する。
- 【都市施設】
- 4市の**高等学校(17校)の内11校**は城端線・氷見線各駅から半径2km以内に立地している。
 - 4市の**医療施設、大規模小売施設**は、城端線・氷見線各駅周辺だけでなく、自動車での利便性が高い幹線道路沿いなど郊外にも数多く立地している。
 - 各市の**中心市街地**は城端線・氷見線沿線駅を中心に形成されており、官公庁、図書館、体育館などの**公共施設**は駅周辺に一定程度集積している。



図 主な観光地、観光施設の分布

（3）城端線・氷見線沿線の公共交通網

- 鉄軌道では、高岡駅から、**東西方面にあいの風とやま鉄道、北方面へ万葉線**が運行している。
- 4市の民間バス路線は、高岡駅、砺波駅などの拠点駅から**放射状**に延び、複数の市に渡って運行している。
- 市営バスは、鉄軌道や民間バス路線が行き届かない地域や山間部等へ、多様な路線が運行している。
- 高岡から城端、五箇山と白川郷を結ぶ「世界遺産バス」や、高岡と氷見、和倉温泉を結ぶ「わくライナー」などの**観光路線バス**も運行されている。

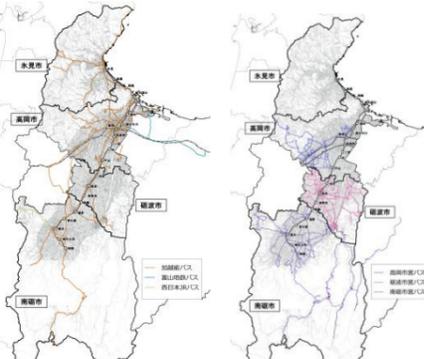


図 民間バスネットワーク 図 公営バスネットワーク

（4）城端線・氷見線の現状

- 平成27年3月に北陸新幹線、**城端線の新高岡駅**が開業。
- 北陸新幹線、城端線新高岡駅の開業と同時に、城端線で**試行的な増便運行**を実施（1日4往復、全8便。）
- 城端線・氷見線の乗車人員は、長期的には減少傾向にあったが、平成21年から平成25年度までは**増加**に転じた。この間は、定期外利用者が減少する一方で、**通勤・通学による定期利用者が増加**し、全体として利用者が増加する結果となった。
- 平成27年10月より城端線・氷見線において**観光列車「ベル・モンターニュ・エ・メール号」**（愛称：べるもんた）が運行されている。運行本数は1日2往復であり、土日に運行している。
- 平成29年4月に、城端線新高岡駅に**交通ICカード「ICOCA（イコカ）」**が導入される。新高岡駅からあいの風とやま鉄道各駅、IRいしかわ鉄道、JR西日本金沢駅～大聖寺駅間で相互利用が可能となる。

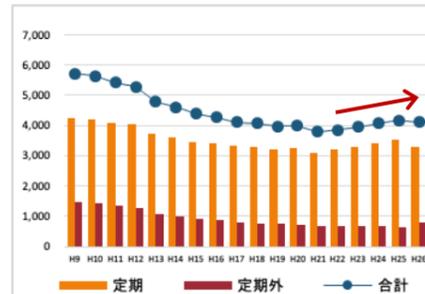


図 城端線の1日あたり乗車人員

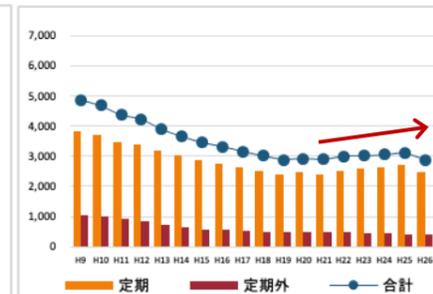


図 氷見線の1日あたり乗車人員



図 観光列車「ベル・モンターニュ・エ・メール号」

（5）沿線住民のニーズ

- 城端線・氷見線とも「**鉄道・バス等との乗継ぎ**」「**運行本数**」「**駅施設の快適さ**」に対する満足度が低い。
- 特に、氷見線利用者の「**鉄道・バス等との乗継**」に関する満足度が低い傾向がみられる。
- 北陸新幹線と城端線新高岡駅が開業し、地域交通や観光利用での公共交通の需要が変化している中、城端線新高岡駅での「**北陸新幹線との乗継ぎ**」に関する満足度が低い。
- 「**駅の自転車駐輪場**」については、両線とも一定の満足度がある。

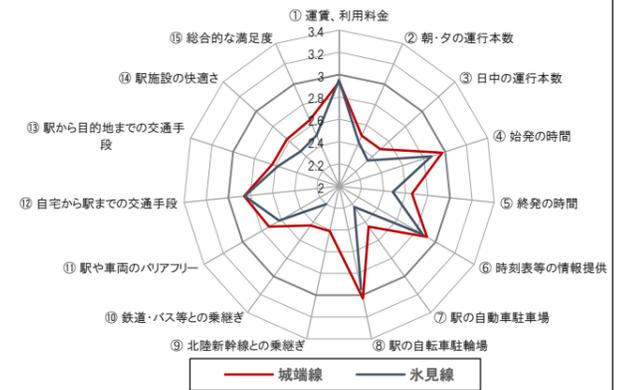


図 城端線・氷見線の満足度 アンケート結果（満足度を5段階評価）

3. 城端線・氷見線沿線地域の公共交通の課題

【城端線・氷見線の課題】

- 沿線人口の減少及び少子高齢化
利用者の主体である通勤・通学の定期利用者数の維持、定期外利用者の増加に向けた取り組みが必要
- 城端線・氷見線間のアクセス改善
- 車輦、レールの老朽化
- 北陸新幹線との乗継ぎの改善

【駅施設、駅周辺の課題】

- 駅舎・駅周辺の利便性向上
- 駅舎のバリアフリー化など利用環境の改善
- 駅周辺の駐車場ニーズに対する対策
- 運行状況、乗換え案内等の情報提供の充実
- 観光客の利用を考慮した駅施設整備

【公共交通網の課題】

- 鉄道、バス、路面電車等の乗継ぎの改善
- バスの運行ルート、ダイヤと利用者ニーズの不一致
- 広域バスネットワークの活性化
- 観光目線での公共交通網の整備・サービスの提供

【利用者増加への課題】

- 公共交通を利用する機会、動機が少ない
- 通勤・通学など日常利用者にとっての利便性向上
- 利用目的となる駅周辺や沿線観光地の魅力向上
- 利用者マナー向上、駅美化、沿線の景観づくりなど、愛着の造成

地域に利用される交通ネットワークの形成
～城端線・氷見線沿線地域の自立的な発展を目指して～

基本方針1【生活利用の視点から】
日常生活の足として利用される
利便性の高い公共交通の実現

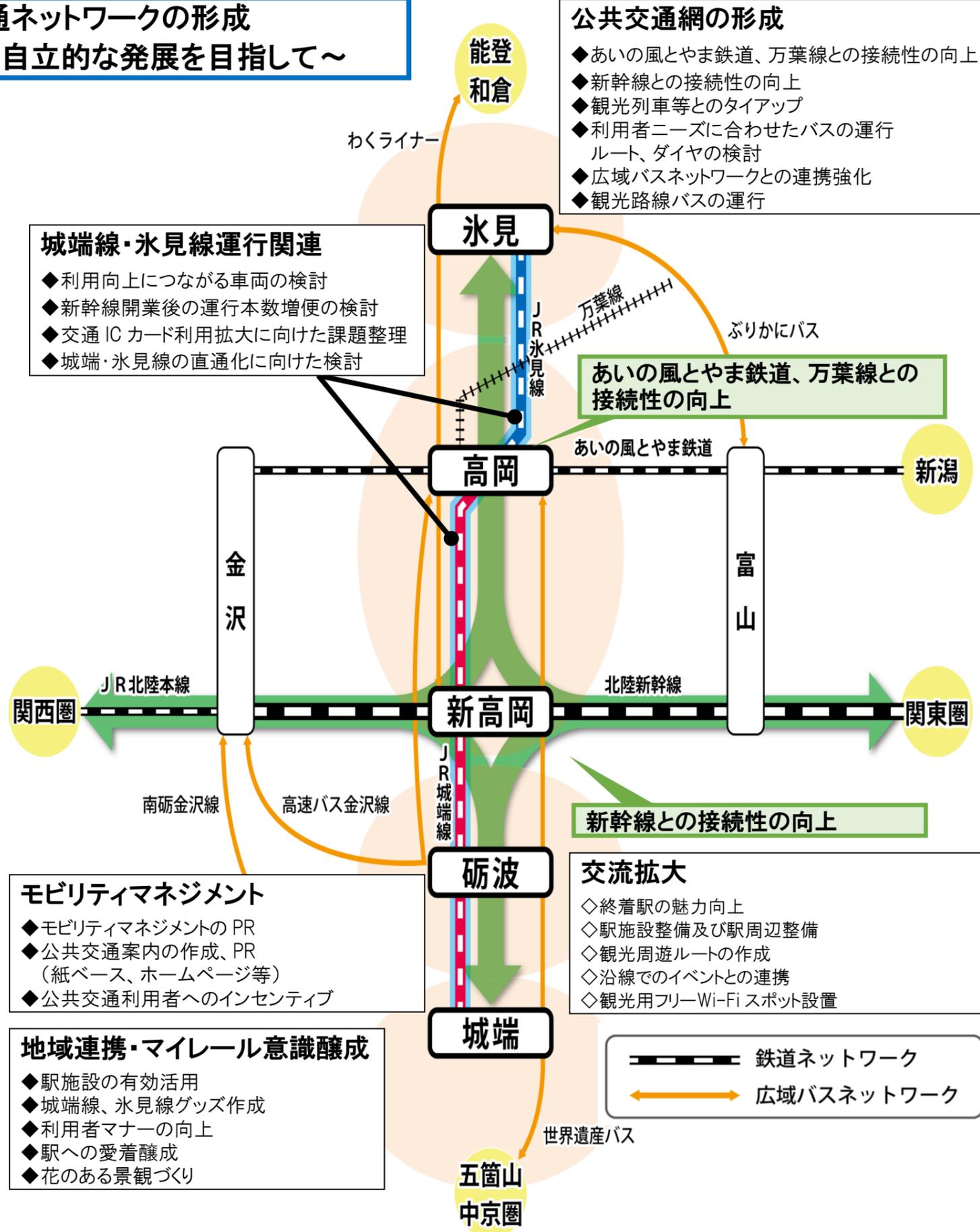
JR 城端線・氷見線を始めとする沿線地域の公共交通は、通学・通勤利用者を中心に、従来から沿線住民の日常生活の足として多くの方に利用されている。日常生活における移動手段として、地域生活者にとって利便性の高い、満足度の高い公共交通網の形成を目指す。

基本方針2【広域交流の視点から】
沿線地域の発展に繋がる
交通ネットワーク網の形成

平成 27 年に北陸新幹線が開業し、首都圏と沿線地域が新たに新幹線新高岡駅によって結ばれ、沿線地域の公共交通は、新たに広域交流の裾野を広げるツールとしての役割を担っている。ビジネス目的や観光目的など、多くの方に、分かりやすく利用しやすい交通ネットワーク網の形成を目指す。

基本方針3【将来のまちづくりを見据えて】
人口減少社会を見据えた、公共交通を
中心としたライフスタイルの定着

少子高齢化、人口減少が進む中、都市機能の配置や再開発など、まちづくりを進める上で公共交通との連携は欠かせない視点である。都市と居住エリア、沿線地域間を結ぶ移動しやすい公共交通ネットワークを確立することで、自動車依存からの脱却を図り、公共交通を中心としたライフスタイルの定着を目指す。



計画の目標

【目標1】城端線・氷見線の乗車人員
10,840 人/日 (H27 現状値) → 10,840 人/日以上 (H33 目標値)

今後、沿線 4 市の人口減少率は、これまで以上に高まることが予測される。その中でも、城端線・氷見線の乗車人員を現状数以上とすることを旨とする。

【目標2】定期外利用者割合の増加
城端線 21.9% (H27 現状値) → 城端線 26% (H33 目標値)
氷見線 16.9% (H27 現状値) → 氷見線 21% (H33 目標値)

観光利用や沿線でのイベント開催、公共交通の利用啓発の取組み等により、通勤・通学等の定期利用者以外の新たな需要の取り込みを図る。

【目標3】公共交通利用圏域内の人口カバー率
71.7% (H27 現状値) → 75% (H33 目標値)

誰もが地域内を円滑に移動できる交通体系を目指し、鉄軌道駅、バス停から一定の利便性のある圏域内に含まれる沿線人口の割合を高める。

【目標4】城端線・氷見線とその他鉄道やバスとの乗継ぎ満足度(5段階評価)
城端線: 平均評価 2.4 (H27 現状値) → 城端線: 2.7 (H33 目標値)
氷見線: 平均評価 2.2 (H27 現状値) → 氷見線: 2.5 (H33 目標値)

異なる交通間の乗り継ぎを改善し、利用者の満足度を高める。

【目標5】過去 1 年に利用した交通手段における城端線・氷見線利用割合
城端線: 26.9% (H27 現状値) → 約5%の向上 (H33 目標値)
氷見線: 13.8% (H27 現状値) → 32% (H33 目標値)
20% (H33 目標値)

公共交通を中心としたライフスタイルへの転換を図る。

城端線・氷見線沿線地域公共交通網形成計画(平成 29 年3月)【概要版】 取組み事業

No	形成計画での取組み	【連携計画での位置付け】	事業目的	取組み内容	実施年度					目標との関連 (●:強く関連 ○:関連)					基本方針との関連 (●:強く関連 ○:関連)		
					29	30	31	32	33	①乗車人員	②定期外利用	③人口カパー率	④乗継ぎ満足度	⑤過去1年の利用	生活利用	交流拡大	将来のまちづくり
1	利用向上につながる車両の検討	【車両の内装のリニューアルの検討】	既存車両について、ラッピングや車内環境の快適性向上を図ることで、城端線・氷見線への愛着醸成やイメージアップと利用者数の維持向上を目指す。	■ラッピング列車を活用したイメージアップ ■車内環境の快適性向上の検討						●	●	○		●	○	●	○
2	新幹線開業後の運行本数増便の検討	【車両導入も考慮した運行本数増便の検討】	新幹線開業と同時に取り組んでいる城端線での増便試行運行(1日4往復8便の増便)の検証を通じ、新幹線開業後の観光目的利用者の動向や沿線住民も含めた利用状況等を勘案しながら、日常利用や新幹線の二次交通としての利便性向上を図り、利用者数の維持向上を目指す。	■増便試行の継続実施と効果検証 ■効果検証に基づく運行本数増便の検討						●	●	○	●	●	●	○	●
3	交通 IC カード利用拡大に向けた課題整理	【交通 IC カードの導入に当たっての課題整理】	あいの風とやま鉄道区間で利用可能な交通 IC カード「ICOCA」について、城端線新高岡駅でも利用可能となることから(H29.4~)、更なる利用拡大に向け、必要な課題の整理を行う。	■交通 IC カードシステム利用可能エリア拡大検討調査						●	●	○	●	●	●	●	○
4	城端線・氷見線の直通化に向けた検討	【城端線・氷見線の直通化の課題整理】	城端線・氷見線の直通化に向けた検討を行うため、概算事業費の検証や具体的なダイヤシミュレーションなどを行う。	■課題整理の結果を踏まえた課題の解決調整、直通化に向けた検討調査(直通化概算整備費の検証、ダイヤシミュレーション、運行経費等)						●	●	○	●	●	●	●	●
5	あいの風とやま鉄道、万葉線との接続性の向上【地域交通】	【輸送サービス向上】	日常利用の利便性を強化するため、各路線の接続を考慮した運行ダイヤを検討することで相互に利用者数の維持向上を目指す。	■あいの風とやま鉄道及び万葉線との接続を考慮したダイヤの検討						●		○	●		●	○	●
6	北陸新幹線との接続性の向上【広域交通】	新規	広域交通としての利便性を強化するため、新幹線との乗り継ぎ利便性の高い運行ダイヤを検討し、利用者数の維持向上を目指す。	■新幹線との接続を考慮した城端線ダイヤの検討						●	●	○	●		○	●	●
7	観光列車等とのタイアップ【観光交通】	新規【観光資源の活用】	沿線地域の魅力を発信するツールとして、観光列車の運行やタイアップ企画等について検討する。地域の魅力発信による観光の振興を図り、定期外利用者数の増加に繋げる。	■ベル・モンターニュ・エ・メール号での乗客サービスの提供 ■観光客おもてなし企画の検討 ■あいの風とやま鉄道観光列車(H30 予定)とのタイアップ企画の検討 ■関連グッズの検討						●	●			●		●	○
8	利用者ニーズに合わせたバスの運行ルート、ダイヤの検討【地域生活路線】	【バスとの乗換え円滑化】	通勤・通学利用者、高齢者をはじめとする利用者ニーズ、沿線まちづくりの動向等に合わせ、必要なバス路線や異なる交通間の乗り継ぎダイヤを検討することで、利便性の向上と利用者数の維持向上を図る。	■運行ルートやダイヤの検討 ■沿線のまちづくりや都市機能の集積と連動したバス路線網の検討						●		●	●	●	●		●
9	広域バスネットワークとの連携強化【広域生活路線】	新規	地域生活路線と、計画区域をまたぐような移動を支える広域バスネットワークとの連携強化により、多様な広域移動路線の確保を図る。	■複数の自治体や県域をまたぐ広域生活路線バスネットワークとの連携強化						●		●	●	●	●	○	●
10	観光路線バスの運行【観光路線】	新規	既存観光路線バスの利用促進や、新たな観光路線の検討を行うことで、観光やビジネスに資する広域交流の拡大を図る。	■既存観光路線バスの利用促進 ■主要駅発着の観光路線の検討						●	●		●	●		●	○
11	終着駅の魅力向上	新規	氷見駅、城端駅の終着駅としての拠点性及び目的地としての魅力の向上により、利用者数の維持向上と、終着駅から沿線地域全体への観光交流の拡大を図る。	■氷見駅、城端駅について、終着駅としての拠点性向上、目的地としての魅力向上等の方策検討						●	●	○		●		●	●
12	駅施設整備及び駅周辺整備	【駅施設整備及び駅周辺整備】	駅施設や周辺の関連施設を整備することで、利用者の利便性向上と公共交通利用への転換を図る。	■駅施設、付属施設、駅前広場、アクセス経路の整備						●	●	●			●		●
13	観光周遊ルートの作成	新規	城端線・氷見線を活用した観光モデルプランを作成することで、定期外利用者数の増加と観光交流の拡大を図る。今後、増加が期待される訪日外国人旅行者など、海外の需要を取り込むため、多言語対応による交通・観光案内板の整備、パンフレット作成等、海外からの団体・個人旅行者の利用増加に繋げる。	■公共交通利用を前提とした観光モデルプランの作成 ■訪日外国人旅行者向けの情報提供、情報発信の充実						●	●		●	●		●	○

No	形成計画での 取組み	【連携計画での 位置付け】	事業目的	取組み内容	実施年度					目標との関連 (●:強く関連 ○:関連)					基本方針との関連 (●:強く関連 ○:関連)			
					29	30	31	32	33	①乗車 人員	②定期 外利用	③人口カ バー率	④乗継ぎ 満足度	⑤過去1 年の利用	生活 利用	交流 拡大	将来の まちづくり	
14	沿線でのイベントとの連携	【沿線各自治体とのイベントの連携】 【万葉線との連携】	沿線の地域資源や観光地、イベント等と連携し、公共交通を介した交流拡大、利用者数の維持向上、乗車機会の創出等を図る。	■城端線・氷見線を利用したイベントの開催促進、支援 ■アニメ等地元資源を活用したイベントの共催、開催支援 ■万葉線との連携イベントの共催							●	●			●		●	○
15	観光用フリーWi-Fi スポット設置	新規	観光客等が利用できるWi-Fi スポットの設置により案内機能の強化や利便性の向上を図る。訪日外国人旅行者にとっても、安心して沿線を訪れることができるよう、受入環境の整備に取り組む。	■Wi-Fi 設備の設置							●	●					●	○
16	モビリティマネジメントのPR	新規	自動車から公共交通利用への転換を図るモビリティマネジメント手法を取り入れた情報提供やアンケートの実施等により、沿線住民の公共交通利用への意識変容を促す。	■自動車通勤者に対する情報提供やアンケートの実施・公共交通のお試し利用の実施 ■自動車運転免許返納者への公共交通利用割引の適用等サービスの導入・拡充検討							●	●			●	●		○
17	公共交通案内の作成、PR (紙ベース、ホームページ等)	【乗換案内の充実】	沿線地域の公共交通網に関して、異なる交通手段を含めた広域的な交通マップの作成等積極的な情報提供を行い、公共交通利用への転換を図る。また、訪日外国人旅行者向けの多言語対応による交通・観光案内板の整備、パンフレット作成等に取組み、受入環境の整備を図る。	■バスと連携した時刻表の作成 ■沿線公共交通マップの作成 ■駅施設のバリアフリー対応に関する情報提供 ■バス時刻表、乗換え案内のインターネット検索システムへの反映 ■多言語対応の交通・観光案内版、パンフレット作成							●	●			●	●	●	○
18	公共交通利用者へのインセンティブ	新規 【城端線・氷見線の利用補助制度】	公共交通利用に転換することに意義を見い出せるようなインセンティブ施策の導入を検討し、利用者数の維持向上を図る。	■異なる交通機関利用時に併用できる共通乗車券、定期券の導入検討 ■児童、生徒らの体験学習時の利用支援 ■公共交通利用促進運動等実施事業所への補助方策検討 ■児童、生徒向けのホリデーバス、1日乗車券等							●	●			●	●		●
19	駅施設の有効活用	【駅施設整備及び駅周辺整備】	駅や駅周辺施設の整備、利活用について、まちづくりの方向性を踏まえながら検討し、地域の拠点機能としての役割強化を図るとともに、城端線・氷見線への愛着醸成を図る。	■まちづくり拠点としての駅舎、駅周辺施設の整備検討							●	●	○			●		○
20	城端線、氷見線グッズ作成	新規 【観光資源の活用】	城端線・氷見線に関するオリジナルグッズを作成、販売することで、話題づくり、愛着の醸成を図るとともに、販売収益による経営安定への寄与を目指す。	■オリジナルグッズの作成等による親しみやすさの向上 ■グッズ販売による収益改善							●	●			●	●	○	
21	利用者マナーの向上	新規	朝夕の通勤・通学時間帯等における利用者マナーの向上を図り、利用者が安心して乗車できる車内環境を創出する。	■利用者マナー向上の車内アナウンス、広告等 ■学校を通じた利用者マナー向上啓発							●	●			●	●		○
22	駅への愛着醸成	【地元ボランティアによる環境美化】	地元ボランティアによる美化活動など、駅を中心とした多様な活動を促進することで、駅や路線への愛着を醸成する。	■地元ボランティアによる環境美化活動 ■駅や鉄道に親しむイベントの開催等、駅周辺に集まる機会の創出							●	●			●	●		○
23	花のある景観づくり	新規	城端線・氷見線の各駅や沿線において、花のある景観づくりを行い、季節ごとの魅力創出を図るとともに路線への愛着を醸成する。	■城端・氷見線の各駅への花植の実施 ■車窓からの眺望が楽しめる景観づくり							●	●			●	●	○	